

【解説】簡単に言えば、これはウィルコックの未刊（8月発売）の著 *The Synchronicity Key* が完成するまでの裏話である。普通は、私的な裏話など切り離して考えるところだが、ウィルコックの特異な人格と経歴を知る者からすると、そうはできない。彼の見る夢を始めとする私生活そのものが歴史と絡まっており、何より彼自身がそれを自覚しているからである。

彼がこの本を「狂気じみた」タイトなスケジュールの中で書いて、なんとか間に合わせたのは、これが今にも起こりそうな、我々の惑星的運命の大転換を予測するものだからである。「アセンション症候」の一つとして、シンクロニシティ（意図的としか思えない偶然の一致）が頻繁に起こるようになるによく言われるが、これはごく小さな個人的なものから歴史的なものまであって、ウィルコックはこれを、我々が目的をもって生きていることに気付かせるための「神のデザイン」だと言っている。

彼が（ひとかけらの傲慢もなく）自ら「偉大な芸術作品」と呼ぶ今度の新著は、歴史的同時性——宗教的に言えば摂理的同時性——のサイクルが厳然と存在することの発見とその意味の分析、その厳密な実証が、500頁にわたって展開されているらしい。そこに達するまでの彼の精神の拡大の経路と、それに伴う彼の興奮を追体験するためだけでも、ぜひともこれを読んでいただきたいと思う。

悪夢はもうすぐ終わる—Part 1

David Wilcock

June 8, 2013



NSA (アメリカ国家安全保障局) のデータ破壊スキャンダルは、何年も前から我々が予想していた、陰の権力エリート陰謀団がいま公に暴露され、法廷につき出される直前にあるという、無数の強力な証拠の一つにすぎない。

ひとたびこれが起これば、それは、歴史の趨勢を変える上で、9.11 などとは比較にならない、近代史のすべての事件の中で最も重大なものとなるだろう。

しかし今度の場合は、歴史はよい方に変わるのであって、悪い方ではない。

もはや陰謀「論」ではない

あなたが考え、オンラインで話しかつ行動しているすべてを、NSAがスパイしていた可能性があると知ったとき、どんな気持ちができるか？

クレジットカードで支払って行動するあなたが、すべて尾行されていると知ったときの気分はどうか？

あなたが電話する度に、相手が誰か、いつのことか、話した長さなどが全部知られ、しかもそれは現在、筒抜け状態にあることのほんの一部にすぎないと知ったとき、どんな気持ちができるか？

多くの人にとってこれは完全なショックである。いま大見出しが爆発しつつある。我々が知っていると思っているすべては再吟味されねばならない。

ベッドの下に怪物がいる。

他の一部の人々——米国会議員が明らかにそこに入る——は、これを「新しくもないこと」として一蹴するだろう。

私は、一般大衆はそうは考えないと思う。

戦慄の感覚

私はこれが事実であることを何年も前から知っていた。そして真理が我々を自由にするだろうということも。

きょう 2013 年 6 月 7 日（金）目覚めた時、私は戦慄というべき感覚に襲われた。

ついに——長い年月の後ついに——この地球の悪夢がもうすぐ終わるという証拠が否定できないものとなった。

過去 6 カ月の間に、私は 700 近い参考文献を含む、500 頁からなる本を書いたが、これは、すでに起こり始めている一連の出来事を大胆に予言するものである。

その同じ期間中に、私はまた、私のテレビ・ショーの 21 回分の 30 分番組を書き、演出もした(リンク)——2 週間先までの 6 回分のテープ取りも含めて。

これは大変なハードワークで、これまでの生涯で最もきつい仕事だったが、同時に、これまでこれほど良い気分を味わったことはない。

この新しい研究書において私は、この悪夢はほとんど終わったという、筋道を立てた主張をすることになる——読者が自分で調べることのできる何百という特定のデータを添えて。

私は最初に、包括的な年代順のアウトラインを実際に書いたが、これはあまり私のしないことである。このような膨大な量の情報を組織的に組み立てるには、この方法しかなかったのだ。

これは驚くことではない

これまでずっと、このウェブサイトとその協力者たちに難癖をつける人々は、一つの国際的な同盟が「権力エリート」を倒そうとしているなどという幻想を信ずるとは、なんという愚か者よ、と言って冷笑してきた。

多くの場合、より深い心理的働きが彼らの抵抗の動機であったと思える。証拠となる事実がどんなに沢山あっても、彼らを納得させることはできないようだ。

それが真実であることを心の中で“許す”ことができない人々がいる。それはたぶん彼らが、自分の希望が砕かれることをそれほどまでに怖れているということである。

彼らはまた自分たちが、超自然的な、ほとんど万能の復讐の神に対する、恐ろしい闘争に巻き込まれるのではないかと考えて、尻込みするのである。

にもかかわらず、ベンジャミン・フルフォードは、2008年のデビュー以来、この積極的な同盟にずっと接触していて、その時から私は、彼の主張を調べ報告してきた。

私は、2009年12月に書いたDisclosure Endgame, Part 3(リンク)において、この同盟の歴史に関する、詳しく非常にタイムリーなインサイダー証言を載せている。

明らかにこの情報は、今日ますます重要なものになってきた。

ロシアのキリスト教徒たちの頑強な一団

この要約文の中ほどで、最初1970年代にソヴィエトのボリシェヴィキを倒した「ロシア生まれのキリスト教徒たちの頑強な一団」の話(リンク)を、私は紹介しておいた。

あなたは、1917年のボリシェヴィキ革命が、ウォール街から資金援助されていたことを知って驚くかもしれない。これは、この8月に発売される、私の新しい本 *The Synchronicity Key* で強調している多くの要点の一つである。

ジョン・F・ケネディーの最も信頼された銀行家だったインサイダー、Peter David Beter 博士によれば(リンク)、このクリスチャンの抵抗団体は、1977年の時点で「少なくとも2世紀の歴史をもつ」団体であった。

だとすれば、この同盟は、「イルミナティ」がバヴァリアで創設された、はるか1776年の昔にまで遡ることがわかる。

最も驚くべきは、このクリスチャンの同盟が **60年間**努力して、ついに「陰謀団」の強力な分派であるボリシェヴィキを、1970年代に追い出したことである。

いくつかの重要な行動が、彼らのまさに鼻の下でなされた——1953年3月5日のヨシフ・スターリンの暗殺、1960年代のフルシチョフによる脱スターリン運動を含めて。

これら2つの出来事のさらに深い宇宙的脈絡が、『シンクロニシティ・キー』の中で明瞭に説明されている。

ボリシェヴィキ党は、1970年代後半に、罌が彼らの上にパタンと下りるまで、何が起きているのか全く知らなかった。この惑星的自由の探究は、現時点でも依然として進行中である。

忍耐、持続、漸次的変化が鍵

ビーター博士のウェブマスターは、ウェブサイトの内容をおおまかに要約して、この同盟がどのように働いているかを明らかにした(リンク)：——

(「陰謀団」を打ち破るこの60年にわたる) この経験によって彼らは、ポリシェヴィキとかシオニストのような人々を相手にする時には、どうすれば効果があり、どうすれば効果がないかについて、非常に明確な、生き生きした見解をもつに至った。

彼らはまた、何であれ急激で根源的な変化は革命につながり、そして革命が起こると、ポリシェヴィキ-シオニスト要員が、それを利用しようとして現れることを知っている。

この同盟は1980年代に、そして再び1990年代に、後退させられたように見えたが、全面的核兵器禁止計画案をひっさげて現れたゴルバチョフは、明らかにその一員であった。

さらには、私の知っている数人のインサイダーによれば、ウラジミール・プーチンは現在、この同盟の最も目に見える同調者だということである。

私は2011年11月、「権力エリート」に対する何兆ドルの返還訴訟が公になり、それについて書き始めて後(リンク)、フルフォードと共に働いているこの同盟のアジア要員と、個人的に接触した。

私のその記事だけでも、現在、百万以上の人々に読まれている。

この同盟に引き込まれる

2011年12月1日、私は、この同盟とその要求が本物であることを証拠立てる、信じられないほどの大量の写真と文書を受け取り始めた。

私はそれ以来、このサイトに、これをサポートする、何冊もの本に相当する記事を載せてきた。これは、私が個人的に知っている数人のインサイダーの話では、地上で唯一の、最も危険で極秘の話題と考えられているという。

2012年12月、この同盟は、2編の3時間物のドキュメンタリー映画を製作するように命じたらしく、これがロシアの国営テレビで放映され、何百万の人々がこれを見た(リンク)。

私はその両方に出ており、彼らの話では、これらのドキュメンタリーは、私の書いた調査報告、特に Financial Tyranny (リンク) を中心に組み立てられているということだった。

この出演の2回目のテープ取りの直後から、私は新しい本を狂ったように書き始めた。

私が驚いたのは、この2つのTVショーの一つ目が放映された同じ日に、ドイツが連邦準備銀行から、30万キログラムの金の返還を要求したことである (リンク)。

歴史的出来事のより深い宇宙的脈絡

我々の議論の宇宙的コンテキストを正しく設定するために、いくつかの個人的情報を知っておいていただこうと思う——多くの方がこの種のアップデートを求めているので。

『シンクロシティ・キー』を書くのは恐ろしく困難だったが、究極的には私は大きな報いを得た。私はもうすでに、その創造の過程の魔法を懐かしんおり、続編を書くことを楽しみにしている。私は、マヤ歴でいう2012年12月21日の終末に、特に目立つような変化が起こらなかったことをひとたび理解すると、一步退いて、私の集めてきた情報のすべてを、巨視的に見なければならなくなった。

『根源の場の研究』 *The Source Field Investigations* (リンク) で私は、2012年12月は現実に、25,920年地球サイクルの終わる時だという主張に間違いのないことを、明確に論証した。

世界全体にわたる30以上の古代文化が、そのそれぞれの神話に、このサイクルをよく考えるように注意を促す情報を、特別に「暗号化」して取り入れている。

これは明らかに、統一された協力的な努力の結果であり、それはキリスト教を含め、世界のすべての偉大な霊的教えの基礎を築いた善意ある人々の、努力の結果のように思われた。

私の研究のすべてが、この本に取りこまれはしなかった。パズルの非常に重要なピースが除外されねばならなかった。

除外された頁には、いかにこの「マスター・サイクル」が、より小さな時間単位にきちんと分かれ、大きな歴史的イベントが時計のように繰り返されているかという、驚くべき情報が含まれていた。

時間サイクルの完全な議論を含め、200 頁が割愛されねばならなかった

2010 年の秋に、私は『根源の場の研究』の 700 頁以上におよぶ原稿を出版社に手渡したが、はっきりと 200 頁は除かなければならないと言われた。

苦痛この上ないことであったが、私たちは結局、時間の大きなサイクルに関する頁はすべて除かざるを得ないと合意した。

これは、私が週に 6, 7 日、毎日 14 時間、何カ月をも費やして書き上げた、120 頁におよぶきわめて濃密な研究資料であった。

これらの頁を切り捨てることは大きな不満を残し、恐ろしかった。これは私が自分の時間の大半をつぎ込んだ仕事であり、今それを切り捨てなければならなかった。

私は自分が今、天地を驚倒させるほどのことに向かっていると分かっていた。しかしこの現象について、理解可能で説得力あるやり方で書けるほど、自分は賢くもなく才能もあるとは思えなかった。

3 桁、4 桁、時には 5 桁の数字を物語の中で用いて、読者の目を疲れさせずに済ますことは難しいことである。

別々の時代の特定の歴史的出来事を論じて、その両者の根底にある一体性と相同性を、中学生にも理解できるように比較するということは、なおさら難しいことだ。

私はそれを手離さざるをえなかった。それは悲しいことだったが、ホッとすることでもあった。なぜなら私は、なぜこうした時間のサイクルが起こっているのかという秘密が、まだ解けていないことが分かっていたからである。

その謎解きは、翌 2012 年の 8 月——大マヤ歴の終末のちょうど 4 か月前——になってやっと私に見えてきた。

金融暴政の調査研究が私を引き込んだ

『根源の場の研究』が出版されて 2 カ月もたたないうちに、金融暴政に対する兆ドル規模の訴訟が起こり——私はそこへ引き込まれた。

2010年の私の時間サイクル研究は、「陰謀団」に対する大きな戦闘行為が2011年に起こり、2014年に彼らの敗北によって終結するだろうと、すでに予測していた。

この兆ドル訴訟がひとたび起これば、それは、ナザレのイエスの地上への到来を100年以上遡る、繰り返すサイクルの充足になる可能性が非常に高いと私は理解した。

「金融暴政」研究は、2011年11月から2012年8月まで、私の時間の大部分を消費し、私は極度のストレス消耗の状態に陥った。

一方で私は、出版社に対し新しい本の約束をしていたのに、新しいものはほとんど何も書けないでいた。

私はまず、時間サイクルについての、120頁の濃密に詰め込まれた研究資料の作成から始めなければならなかった。ところが2012年12月の時点で、私は完全な作家の障害にぶつかった。

これはちょっと私の期待していた“アセンション”ではない…

「2012年12月21日：ロマンスと現実」(リンク)に書いたように、私は古代の“黄金時代”予言が、文字通り一夜にして我々を驚かすという“ロマンス”に、すっかり騙されていた。

宇宙的な心のオーガズムとか、友人たちの聖なる集まりさえ起こることなく、私はまさにこの2012年12月21日の夜に、右足の親指をひどく複雑骨折するという羽目に陥った。

これは確かに一種の“宇宙的ジョーク”のようだった。しかし負傷そのものは笑いごとではなかった。

痛みは最初の3日間、かなり強烈だった。そして私は完全に化学薬品を断っているのに、これを和らげる薬物は何も使わなかった。

それから6カ月たった今でも、正常な歩き方をすることはできない——しかし、前よりはるかによくなっている。

世の浮き沈みを見よ

私にとって、骨折した足指は、私/我々がまだ苦痛の中にいるということ、そして我々のハッピーエンドからは、まだ程遠い所にいるということ、を、きわめて明瞭に思い出させるものとなった。

仰向けに寝そべったり、松葉杖でよろよろ歩きながら、私は「善」と「悪」、人生の浮き沈みについていろいろ考えた。

この歩けない痛みと退屈の中で、私はようやく、すべてをつなぎ合わせる「大きな絵」が見えてきた。

これは、私がどのように本を書くか——最初の頁から最後に至るまで——を決めることに關して、すべてを変えてしまった。

地球的出来事の浮きと沈みのつながりや、我々自身の魂の進化の成長サイクルが、突然、私には明瞭になった。

時代を超えた叡智が常に教えてきたように、宇宙のすべては神聖である。このことを理解して知るということ、そしてそれがどのように働き、なぜそうなのかを理解することは、あなたのアセンションの鍵である。

すべての意見を考慮に入れる

私はほとんど瞬時に、私に何をする必要のあるかの完全なヴィジョンを得た。

それは、私の前著についてのアマゾン・レビューの、1つ星から5つ星評価に至るまでのすべての批評を読むことによって、さらに確固たるものになった。

私の判断の及ぶ限りで、私の前著の目立った批評のすべては、新著の構想という形で私に向けられているという確信を得た。

最も共通に見られた注文は、「もっと情報を少なくし、それらが意味するものをもっと論ぜよ」ということであり——まさにこれを私は新著で果たした。

最初の本には1000以上の学術参考文献がついている。今度の本ではそれは700を下回る程度であり、意味するものの議論にもっと多くの力がそそがれている。

私はまた、精巧なスイス時計の繊細さをもってこの本を構成し、一つの小さなセクションを除いて、一語たりとも切り落とす必要がなかったことに満足している。

前著には、もともと部分をつなぎ合わせる意図があったのに、カットされた部分が沢山あった。今回はそういうことはない。その 500 頁のうち犠牲にしなけりばならなかつた頁は一枚もない。

私はその一つの例外のセクションを、最初の原稿で故意に未完成のままにしておいたが、それは編集チームが参加して、それを形作るのを助けてくれるのを当てにしたものだった。そしてその通りになった。現在それはごく自然に流れている。

狂気のような活動

ひとたび書き始めると、私は 6 カ月続けて一晩に 5 ～ 6 時間以上眠ることは滅多になかつた。私は週に一度休むこともなく、一日 14 時間から 15 時間作業した。

私は確かに創造の過程を本当に楽しんだが、それはあたかも、とびきりの高級料理を 60 秒以下で呑みこもうとしているかのような感覚だった。

この同じ期間中に私は、新しい内容が詰め込まれた、Gaiam TV の連続テレビ番組を制作した(リンク)。

週一回 30 分の新しい内容を満たすのに、いつも私の集会で言及したいと思ひながら時間がなくて言えなかつた、多くのことを話すことができた。

それはまた、「情報が多すぎて議論が十分でない」という苦情を、完全に満足させるものだった。

私は月に少なくとも一回の集会をも開いていて、このウェブサイト可能な限りアップデートした。それは本当に狂気の活動というべきものだった。

「陰謀団」の世界的敗退の予言がますます実現していくのを見ながら、私はこのサイトに書く時間をもっと欲しいと心から思つた。しかし本の締め切りは全く動かせなかつた。

それでも、何とか間に合わせ、これはチーム全体にストレスをかけた。8 月発売という我々の締め切りに間に合わせるために、私は 2 月中頃までに、完成した最初の原稿を提出する

ことになっていた。

そうしないと、発売を 2014 年春まで延期しなければならなくなり、もしそうなれば、この本がそれをめぐって書かれ、それを支持するのが目的だったタイムラインは、放棄されるだろう。

それは終わりにかけて本当に狂気じみてきた

実を言うと私は、3 月半ばまで、一部だけの不完全な原稿をさえ出版社に送らなかった。それは遅れに遅れた。最初の原稿そのものが 4 月初めまで完成しなかった。

これは、4 月の第一週以後は、本のいかなる部分も変えることができないということの意味した。私は、彼らがこの“初稿”を送り返してくるのを待つ間の 2 週間、他にやるべき仕事があった。

点検しなければならない大変な量の注があった。ほとんどすべての頁に、少なくとも 1 つか 2 つの調べなければならない事項があった。

私が言ったことのひとつひとつは、事実によってバックアップされねばならなかった——Robin Food Warehouse という食料品店が、1990 年代中頃 New Platz に存在したというような証拠に至るまで。

この厳密な立証のプロセスは、少なくとも 50 以上の学術参考文献を付け加える結果となった。この本はその結果として、いくつかの鍵となる領域ではるかにより強力になり、今それは有効な防備を身につけている。

私がこのヴァージョンを送り返すのに、もう一つの動かない締め切りがあった。そしてこれは本当に誇張でなく、それを成し遂げるのに危うく死ぬところだった——しかもその先にそれ以上のものが待ち受けていた。

狂気の次のレベル

そこでこの本の巨大な、500 頁を少し越える、紙のコピーが送られてきた。修正はすべて赤ペンで書き入れなければならない。

この時点で私は、あちこちの 1 つのセンテンスを変えるぐらいのことしかできなかった。

すでに索引が、編集チームによって作られていたからである。

通常はこの段階で、本の一割までは変えることができる。しかしこの場合は最終段階だったので、ほとんど何も変更はできなかった。

そうしないと索引は無用なものになる。そして読者は、情報を探してもリストされている頁に見つからないことになる。

私はなんとか、滑稽なほど厳しい予定表通りに、この手品のような仕事をやってのけ、朝6時まで起きていて、写真にとった修正頁を送り届けた。

その後でも、格闘できる小さな締め切りは与えられた。実のところ、すべてが終わったのは今から一週間半前のことである。

この時点までに私は燃え尽きたので、一週間は何もしないで通常の状態に戻るまで休養せよという指示を、夢で与えられた。

私は大いにフィンガースタイル・ギターを弾き、私の Apple TV で、すべての最も興味ある音楽フィルムを楽しんだ。

私のテレビ・ショーの通知

4月のこの狂気じみた締め切り騒ぎの最中に、私の新しいテレビ・ショーを通知する時限が来た——それは4月10日に発表された。

私は視聴者の皆さんが示してくれた、圧倒的な肯定的反応に感謝申し上げる。我々はすでに、Gaiam TV のこれまでのレコードを破っていて、私の番組は恒常的に「最も好評」のリストに載っている。

膨大な時間と努力がこれらのショーの計画に費やされている。その一つひとつに、集会のときのような、大量のスライドや特定の情報が用いられる。

私は集会の時よりも、もっと詳細に論ずる時間があり、そのようにしているが、これは恐るべき内容だ。

私はここでは、イベントのときより、もっと組織的で掘り下げた資料の扱いをしている

が、これは時間の余裕があるからである。

少しばかり秘密を申し上げると、これは実はアセンション授業であり(リンク)、私は最初の25回分を用いて、多少とも議論のこの核心部分の地ならしをしているのである。

ボストン・マラソン爆弾事件

私の新しいショー、Wisdom Teachings with David Wilcock を通知した5日後、9.11以後アメリカで起こった最大のテロ攻撃を我々は受けた。

爆弾はボストン・マラソンのフィニッシュ・ラインに仕掛けられ、テキサス州ワコーの肥料工場でも巨大な爆発が起こった。

私はこの本で、我々すべては究極的に、自分で理解しているよりも、いかに確実に思考を共有できるかを書いたところだった。50件もの科学的研究が、瞑想は、戦争や人の死やテロを劇的に減らすことができることを証明している。

そこで私は、あらゆる人々に呼びかけて、ボストン・マラソン攻撃の余波の中で、平和を願う瞑想をするように要請した。

私は明らかに、この攻撃を直観的に予感していたように思う。なぜなら、それが起こる直前まで、私はラジオショーの全体をこの問題——平和のための瞑想はテロを減らすというテーマ——に集中させていたからである。

私がマイクを切って、インターネットを調べたその時、爆弾事件はすでに起こっていた。

ある大きな予言の夢が私を茫然自失させる

それは4月の最後の2週間、私がまだ狂ったように本の締め切りと闘い、すべての社会的・個人的・職業的関心を忘れ去っていた時だった——ある信じられない夢が私を襲った。

この夢を見たのは2013年4月19日——全く仰天するほどの夢だった(リンク)。

それは明らかに、「陰謀団」の大規模な敗退が近づいていることを予示するものだった。これは私の The Storm of Disclosure is About to Hit で読むことができる。

この出来事が頂点に近づくと、しばらくの間、かなり深刻な破壊的影響があるだろうということを示された。

夢の中では、この世界を変える出来事は、信じられないほど巨大な、それが通った後には何も残らないような、雷鳴を伴う嵐として現れた。

注意していただきたいが、これは全世界的な災害では**なかった**。しかし「権力エリート」の中心にある鼓動する心臓——城によって象徴されていた——が、押し寄せてくる嵐の通路の真ん中にあった。

私は、この嵐が現実にやってくる前に、可能な限り「陰謀団」について暴露を試みるように求められていた。

実は今、私がこの文章を書いているのはそのためである——特に、これらの出来事が危機的な大きさに達しようとしている今。

歴史は永遠に変わってしまうだろう

この嵐がひとたびやってくれば、歴史は永遠に変わってしまうことを、私ははっきり示された。

その時点では、私が言ったりおこなったりすることは、すべて「事後」ということになり、したがってそれは、今もっている同じ重みをもつことはなくなる。

夢の時間では、陰謀団のこの大きな敗退は、ほんの半時間後であった。

これが文字通りの時間予想でないことは私には分かっていた。しかし一方で、せいぜい、ほんの数カ月先のメガ級の出来事に、我々が立ち向かおうとしていることは、私には明瞭に理解できた。

これは現実に、私が本の中で書き終えたばかりの時間サイクルに、ぴったり一致する。信ずるのは非常に難しく思えたが、私にはその可能性が十分あると思えた。

NSA（アメリカ国家安全保障局）のデータ破壊スキャンダルが世界を走った昨夜の時点で、私はかなり時が迫っていて、大きく行動に移るべき時だということがわかった。

確実な過去をもつ夢のデータ

私は現在、過去 20 年以上にわたって、ほとんど毎朝、自分の見た夢を記録し分析している。

あまりにも多くの正確な予言が起こっているので、その証明の責任は、何百回も繰り返して果たされている。

そこには、私が 1998 年から始め、2005 年にやめるまで行った、500 人の依頼人の有料の治療経験が含まれる。

すべての依頼人が、(その人について) 私の見た夢を聞くのだが、それがあまりにも正確なので、私たちは 99% の満足率を得た。

私が彼らにそれを語るとき、その人がわっと泣き伏す確率はほとんど 50-50 であった。

これらの症例の一つひとつを記録したオーディオ・カセットを、私は今でも持っているが、これは高度なプライバシーなので秘匿品である。

私はただ見た夢を覚えておいて、依頼人に対して、それをそのまま語るだけでよかった。すると相手は何度も何度も“オーマイゴッド”を繰り返し、その多くは泣きだすのだった。

次の大きな夢はもっと受け入れ難いものだった

私は「ディスクロージャーの嵐が今にもやってくる」を書きあげたとき、気分が良くなった。

しかし 5 月 12 日 (日)、笑えるような厳しい日程で、いまだに本の最後の仕事を頑張っていたとき、私はもう一つの予言の夢を見た。

この時は前の夢にも増して、もっと突飛な、特定の夢だった。

今度ばかりは私は、飛び上がってすぐにネットに記載しようとは思わなかった。この時は、少し引き下がって、時間を取り、それがどういう結果になるか見ていようと思った。

この時の予想はあまりにも精細だったので、それらが本当にそれほど間近に迫っているのか、理解し難かった。

夢においては、どんなことも、すべて象徴的に謎として表現される可能性がある。どんなことも文字通りに取るのは賢明でない——多くの経験不足の人々はそうしがちだが。

私は結局この夢を、夢の一つが私に特定して参加を勧めた Evolvepatooza オンライン会議の中で、詳細に論ずることになった。

次に、起こったことの詳細な要約を述べる。

2013年5月12日の時点で、衝撃まで約6週間

5月12日（日）太平洋時間9:15 amに私がそこから目覚めた夢の中で、私は昼間、私の家の外のドライブウェイ（注：道路から車庫までの道）を歩いていた。

白い服の人物が私に歩み寄ってきて、見ると、この人には通常とはかけ離れた、輝くような特質があった。

彼の存在は直ちに私を楽な気持ちにさせた。すぐさま私には、この人が賢明な人であり、私に貴重な情報をもたらしたのだと分かった。

ある種の新しい未来風の建物が立っていて、彼は玄関を通過して私を中へ招き入れた。彼のような人たちが、この建物の中でコンピューターに向かって仕事をしていた。彼は通常のラップトップ・コンピューターの前に私を坐らせ、自分は反対側に坐って私に顔を向けた。そして私の目をまっすぐ見ながら話し始めた。

「デイヴィド、ここ何年も、我々があなたを準備してきたすべての物事が、起こり始めようとしている。あなたは現実にディスクロージャーを目撃するだろう。」

私は打ちのめされたように、言葉が出なかった。私はただ耳を傾けていた。やっと誰か“心得た人”が私に話しかける決意をしたので、私はうれしかった。

彼は私の前のコンピューターで、あるウェブページを引き出した。「このようにして始まるのだよ。」

驚いたことに、なんと彼は Drudge Report のフロント・ページを引き出したのである！

赤い大見出し

特別にこれは、赤い太字の大見出しの使われた「ドラッジ・リポート」のフロント・ページであった。何か大きな政治的スキャンダルの新しい話が勃発したようだった。

「これが最初の兆候になるだろう。あなたはこのような、赤一色の大見出しが〈ドラッジ・リポート〉に踊っているのを見るだろう。」

「ほぼ1週間以内に見るはずだが、あなたが全部を見るには2週間かかるかもしれない。」

これは夢の始まりに過ぎなかった。私は1週間待てば、何かが見えるのかもしれないと予想した。

翌朝、5月13日（月）の「ドラッジ・リポート」のトップに、赤い大見出しが出ているのを見て私は仰天した。夢で言われた通りだった：――



GOVT TAPS PRESS PHONE RECORDS FOR MONTHS ***DRUDGE REPORT***

(政府が数カ月にわたって新聞社の電話記録を盗聴)

この夢では、赤い大見出しが Huffington Post にも現れるとは特に言わなかったが、それはご覧の通りである：――



(連合的大失敗！ DOJ=合衆国司法省が新聞社を盗聴していた)

驚くべき自然同時性現象 (geosynchronicity) がその翌日に現れた

次の驚くべき現実世界の出来事は、翌日5月14日(火)に起こった非常に不思議な同時性現象(synchronicity)である。

2羽の禿鷲——アメリカ合衆国の公的な象徴——が、互いに鉤爪を食いこませ絡み合ったまま、空港の滑走路に落ちてきた(リンク)。

これは、私が *The Synchronicity Key* という題の、同時性を全面的に扱った本を完成しようとしていたことを考えるなら、驚くべきことである。

この例は、合衆国の張り合う派閥が、現在、互いに攻撃し合っているという、非常に明瞭で当然の分かりやすいメッセージのように思える。

これはまさに我々がその前日に見ていたこと——アメリカの司法省がアメリカの新聞社の電話を盗聴していたこと——ではないか！

のみならず、この出来事のメタ・メッセージは、我々が9.11で見たような飛行機の衝突を中心としている——2羽の鳥が空港の滑走路に落下したのだから。

Two bald eagles in air battle crash-land at airport

Fighting eagles lock talons and are unable to disengage, but both survive

May 14, 2013 by David Strege



How two bald eagles appeared after crash landing. Photo courtesy of Randy Hanzal, Minnesota conservation officer

There was a crash landing Sunday at the Duluth International Airport, but it didn't involve airplanes. Rather, it was two bald eagles, which were fighting in midair when they locked talons. In a rare spectacle of nature, they were unable to disengage in time before crashing to the runway.

秃鷲は両方とも地上に落ちた。空中で互いに闘っている過程で、彼らの鉤爪が絡み合い、相手の肉に食い込んだ状態になっていた。



Photo shows talons intertwined. Photo courtesy of Randy Hanzal, Minnesota conservation officer

この同時性現象はハッピーエンドとなった。疲れ果てた鳥たちは救助を受け入れ、絡み合ったまま動物救護トラックに乗せられた。

そのうち1羽は大丈夫らしく逃げて飛び去った。もう1羽は残り、液体物や栄養物を受け入れ、休息して元気を取り戻した。それは救助者を噛んだり引っ掻いて攻撃することはなかった。



The injured eagle is expected to recover. Photo courtesy of Randy Hanzal, Minnesota conservation officer

この出来事により深い象徴的意味という観点からすると、キャプションがすべてを語っている：——「傷ついた鷲は回復するものと思われる。」

さらに多くの大見出しが2週間枠内に

Evolvepalooza で私が話した後、巨大な見出しが出ると言われた最初の「1週間か2週間」

の時間枠内に、もっと多くの結果が出た——私が夢を見た9日後のことだった。

この時には大見出しは、はるかにもっと悲劇的なものだった——ただ「ドラッジ」は、私
がその写真を取っている間は赤字を使わなかったが：——



TORNADOES RIP OK
DESTRUCTION
MILE-WIDE FUNNEL
200 MPH WINDS
51 DEATHS
DRUDGE REPORT

(竜巻がオクラホマを引き裂く—破壊—数マイルの漏斗幅—
時速 200 マイルの風—死者 51)

次は、その同じ日、2013 年 5 月 21 日 (火) の「ハフィントン・ポスト」のフロント・ペ
ージである：——

OKLAHOMA HORROR

51 Confirmed Dead... 20 Children... At Least 230
Injured... Death Toll Expected To Rise



2 Miles Wide... 200 MPH Winds..... 'We Walked Outside To Apocalypse'...
'Whole City Looks Like Debris Field'... [How To Help...](#) LATEST UPDATES

Comments (1,950) | Shares (1,826) | [Natural Disasters](#)

あの夢では、前例のない破壊力をもったメガ級の嵐が起こり、「陰謀団」を完全に一掃しようとしていた。

夢はこの時点で終わらなかった

夢の中で、私の案内者はさらに続けてこう言った：——「これら最初の大見出しは、その後が続くもっと大きな一連の出来事のための舞台を、直接、用意するものだ。」

「これら後の出来事もまた、すべて赤で、〈ドラッジ・リポート〉のトップの見出しとして現れるだろう。」

「あなたが注意していなければならない肝心の時間枠は、最初の (initial) 大見出しが現れてから 6 週間後だ。」

「その時、何が起こるのですか？」と私は彼に訊ねた。

「ディスクロージャーが始まるだろう」と彼は答えた。「あなたがずっと望んできたすべてが起こり始めるだろう。」

「うーん、もう少し特定して言ってもらえませんか？」と私は言った。このとき、彼はラップトップ・コンピューターで「ドラッグ・レポート」の別の像を引き出した。

「あなたは3つの別々の大きなニュース・ストーリーが、同時に起こるのを見るだろう。そのそれぞれが〈ドラッグ・レポート〉のトップに赤で大きく扱われるだろう。それらは世界的なものだ。あらゆる人々がそれらを話題にすることだろう。」

正直なところ、私はこの夢を公表すべきかどうかわからなかった——この後ですぐ話す詳細を含めて。

私は結局、あのオンライン会議でこの話をするようになった。しかし私は休息を必要としており、まだこのサイトをアップデートする気分にはなれなかった。私は少し自分の時間が欲しかった。そこで何が起こるか、待って見届けることにした。

しかし、この話がひとたび世に出ると、私の休息期間も終わりになった。

このことのタイミングをどう計測したらよいか？

「6週間」という数字はあまりはっきりしなかった。一つの可能性は、6月24日（月）、つまり、あの夢そのものが起こった6週間後にそれがやってくるというものだった。

もう一つの可能性は、7月1日（月）、出来事の最初のラウンドが起こると私が教えられた1週間枠の6週間後に起こる、というものだった。

しかし、あの竜巻が6週を数える主たる座標点と想定されているとしたら、それは大ざっぱに言って2013年7月2日（火）にずれ込むことになる。

あるいはそれは、6週間という数字は象徴的なもので、文字通りではなく、およその枠を示すに過ぎないとも考えられる。

ディスクロージャー関係の大見出し

夢の中で私は、これらの大見出しは「ディスクロージャー」関係のものだと言われた。UFOやETが大々的に現れて、真剣に考えられるようになるということだ。

また私の示されたところでは、ストーリーの一つは、Amardeep Kaleka と Steven Greer 博士の映画「シリウス」で論じられている Atacama ヒューマノイドに関係するようにも思えた。ここに私は、最初の場面と他の数カ所に短く顔を出している。

これらやがて現れる大見出しを夢の中で見た後、案内者と私は、コンピューターのある事務室から立ち上がって再び屋外へ出た。

セキュリティ・ゲート

私は今、自分の家の安全対策のための門とフェンスを見ていた。これは昨年の今頃、いま住んでいる家のドライブウェイの前に設けるように言われたものである。

この要請は、ある恐ろしい夢の形でやってきた。その夢で、私の家は麻薬でおかしくなったヒッピーの男に乱入され、いろんな物を盗まれるのを私は目撃した。

その時の感情は、断絶された恐ろしいものだった。

私は彼に向かって叫ぼうとしたが声が出なかった。それから彼は走って逃げ、ポルシェのような、後部の高くなった銀色のスポーツカーの中へ消えた。

この門を実際に取りつけるにはかなり時間がかかった——そして決して安価ではなかった。しかし今、現にそれはそこにある。

私が話しかけていた男はこう言った——「セキュリティ・ゲートを取りつけるようにあなたに要求したのは理由がある。ファンがあなたの跡をつけてくるからではない。私たちは新聞記者を締め出すためにこれが必要だったのだ。」

「この話が本当に流れ出すと、あらゆる人があなたをインタビューしようとやって来る。そこで私たちは、あなたのプライバシーを確保する必要があったのだ。」

「そうしないと、彼らは巨大な群れをなしてあなたの玄関前まで押し寄せるだろう。」

マイケル・ジャクソンの夢

私は、「権力エリート」の暴露と敗北に並行して起こる、大々的で世界的な私への注目に対して私を用心させようとする、非常に多くの夢をこれまで見てきた。

こうした夢の一つは、マイケル・ジャクソンに関わるものである。

この夢は、私が直観的に受け取った一つのデータに過ぎないのだが、私は長い間これを論ずるのを避けていた。それはあらゆる懐疑論者が、そんなものは“エゴ”の表れであって、それ以上のものではない、と攻撃してくるのは目に見えていたからである。

私がこの夢に最初に触れたのは、2009年9月11日の記載（リンク）であった：——

マイケル・ジャクソンが死ぬ数週前に、私は、彼と一緒に歩いていて、彼が大衆を怖れて心臓発作で死んでしまう夢を見た。

彼が亡くなって後、彼の家族が集まって、マイケルがこの時を選んで死んだのは何と残念なことだと言った——もし、もう少し生きていたら、イルミナティの「新世界秩序」の巨大な敗退を見ることができたに違いない、と彼らは言った。

これは彼が非常に長い間待ち望んでいたことだった。そして今それが間近に迫っている。

彼が現実に死んだとき、それは私にとって、私の夢を創り出している勢力がはっきり未来を見ることができるといふ、もう一つのしるしだった。

ポイントは、それが現実に起こる前に、彼についてのこの夢を私が発表したかどうかではなかった。ポイントは、彼らが私に与えているこの、一見、突拍子もない予言が、実は、本当に事実だと確信させる、もう一つの証拠の層を付け加えたことであつた。

このような非常に大きな問題のいくつかは、私が想像していたよりもっと早く、解決されそうになっていることに、私は喜びを感じている。

また、現実の出来事が起こる前に、読者の方々と共有できるように、この情報を与えられたことを、私はたいへんな名誉だと思っている。これは私の力ではない。

マイケル・ジャクソンの夢に更に触れるなら…

私はこの夢の十分な詳細を、2010年5月15日、Co-Creator Radio NetworkのDr. Robert Pease 司会によるラジオショーで、最終的に明らかにした。ジュディという名の電話質問

者の質問に答えている（リンク）：——

ここから 2010 年 5 月 15 日のラジオショーの抜粋

RP: あなたはデイヴィドに質問があるのでしょうか？

Judy: はい。あなたは論文の中で、彼らは夢の中であなたを準備して、ある別の相で仕事をさせようとしていると言っていました。

あなたが準備されて、別の相において託されている仕事とは何だと考えておられるか、詳しく説明してもらえないでしょうか？

DW: うーん、これはおいしいが不愉快な質問ですねー。知りたいのですか？（笑う）。

RP: （笑う）

Judy: ええ、知りたいです。

予言的なマイケル・ジャクソンの夢

DW: 私は実は詳しくは語れないのですよ。もし私がそれを言うと、エゴマニアに見えるでしょうから。

RP: 何を言ってるのですか、デイヴィド、私たちはあなたをエゴマニアだなんて考えていませんよ。ここではみんな味方なんだから。言ってください。

DW: よろしい、よろしい。では、今まで私が言ったことのない、大いに問題となるあることを申しましょう。

私がマイケル・ジャクソンの死についての夢を、彼が死ぬ3週間ほど前に見たことは、誰でも知っています。

この夢は非常に精細なものでした。夢の中で彼は泣いていて、私の腕の中で死にました——心臓発作で。

夢の中では、彼が死んだ理由は、彼があれほどに公的な存在になったことを怖れてい

たからでした。

私たちは巨大な野外演奏会場の中を歩いていました。すると大きなコマーシャルがスクリーン上に映し出されました。

このコマーシャルは基本的に、彼の鼻と彼の形成外科手術の図を示すものでした。突然、彼は全く狂乱状態になり、パニック攻撃をし始めました。

彼の死について非常に悲しいことは、彼が文字通り私に抱かれて死んだ後に、この巨大な集まりがあったことです。

大きな意味を持つ権力の移行

この集まりには、アフリカ-アメリカ共同体の多くのトップ級有名人がいました——Al Sharpton 牧師のような数々のビッグ・ネームでした。オバマがこの中にいたかどうか定かではありません。

起こったことは基本的に、世界のネガティブで金銭的に腐敗した勢力が、彼らの支配と権力を——明らかに不承不承——放棄する決意をしたことでした。彼らは今、正式にそれをこの新しいグループへ委譲する準備をしていました。

マイケル・ジャクソンの家族の人たちは、現実にこの新しいグループの一部でした。明らかにこれはオバマにとっても同様でした。

要するにここで起こっていたのは、この巨大な権力の委譲でした。

皆が口々に言っていました、「マイケルがあの時期に死んだのは残念だったなあ。もうすこし長く生きていれば、彼がずっと工作し望んでいた、社会のこの大変化を見ることができたのに。」

「あなたは私の経験した通りのことを経験しようとしている」

ところでこの夢を見たのは、彼が死ぬ3週間前のことですが、ここに私が省いた部分があります。マイケルは私に言いました、「あなたは私が経験したのと同じことを経験しようとしている。どうかそこは私よりうまくやってもらいたいのだ。」

前後関係からして明らかなのは、この巨大な権力の移行が社会で起こるのに伴って、私自身の生涯の知名度も、彼と同じように大きくなるということでした。

私は、自分が世界で高度に名の知られた重要な存在になっている夢を、これまでに何度も見えています。

それに対する私の最上の方法は、たいていの場合、それを無視することです。なぜならそれは、私の気をそらす以外には、日々私がやっていることにあまり影響を与えないからです。

マイケルの死の日が起こった驚嘆すべき同時性現象

しかし、すばらしく魅力的なもう一方のことは、ある同時性現象です。私は電話、実はインターネット電話で、Henry Deacon と話し中でした。ディーコンは Camelot 会議のトップの証人で、我々によく似た地球外人と——実は火星上の基地で——現実に働いた人です。

私は彼の言うことは本当だと確信しています。私は彼と 80 時間以上、問答しています。私はここで自分が何を言っているかよくわかっています。

私たちはあの日、電話で話していました。そしてそれは驚嘆すべき会話でした。電話を切るや否や、マイケル・ジャクソンが死んだことを私は知りました。

彼は私に電話をかけ直してきて、マイケル・ジャクソンが死んだというのに、Google Video のトップに彼のビデオが一つも出ていないのはおかしいことだ、と言ってきました。

彼は、そこに何らかの隠蔽があるとすぐに感じたのでした。彼らは彼のビデオを見せたくないのです——人々が当然、見ていてしかるべきものなのに。

するとその時、彼はビデオを見ながら叫びました、「オーマイゴッド！ オーマイゴッド！ オーマイゴッド！」

「どうしたのだ？」と私。

すると彼は言いました、「おい、君はビデオを見たかい？」

私は彼に、マイケル・ジャクソンが私に「あなたは私くらい有名になる」と言った夢の話をしたばかりでした。

「それがあなたにも起ころうとしているのです。きっとあなたは私よりうまくやれると思う——私はそれを認めているのだから。私の場合はかなり面倒なことになりましたよ。」

それでヘンリーは言ったのです、「オーマイゴッド！ オーマイゴッド！ オーマイゴッド！」

「どうしたのだ？」

「君はトップ・ビデオ・リストに出ているものを、本当に見たか？」

「いや、見ていない」

「ちゃんと見てみろ」

[Web](#) [Images](#) [Video](#) [Maps](#) [News](#) [Shopping](#) [Gmail](#) [more](#) ▼

Google videos

Search Vi

Hot videos



[The Last Airbender
Teaser ...](#)
01:41 - ★★★★★
youtube.com



[The 2012 Enigma by
David ...](#)
1:35:47 - ★★★★★
video.google.com



[Red Hot Chili
Peppers ...](#)
04:55 - ★★★★★
pp2g.tv



[Miley Cyrus - "7
Things ...](#)
★★★★☆
mtv.com

The 2012 Enigma は、マイケル・ジャクソンが死んだその時、そして彼が死んだあと数時間、グーグルで最も見られているユーチューブの No. 2 でした。そして私には証拠があります——私は写真を撮っておいたのです。



[The Last Airbender Teaser](#)
01:41 - ★★★★★
youtube.com



[The 2012 Enigma by David Wilcock](#)
1:35:47 - ★★★★★
video.google.com



[Red Hot Chili Peppers](#)
04:55 - ★★★★★
pp2g.tv



[Miley Cyrus - 7 Things](#)
★★★★★
mtv.com



[Lego Zelda](#)
03:43 - ★★★★★
dailymotion.com



[WWE Royal Rumble 2009 B](#)
1:22:44 - ★★★★★
v.youku.com



[POKEMON Episode 512 saison 12](#)
20:36 - ★★★★★
wat.tv



[Lady Gaga Poker Face](#)
03:52 - ★★★★★
v.blog.sohu.com



[Transformers 2 reavage of](#)
10:00 - ★★★★★
youtube.com



[Mr. Smith Goes to V](#)
2:10:01 - ★★★★★
video.google.com



[John Cena vs JBL \(IYC\)](#)
17:31 - ★★★★★
dailymotion.com



[Naruto 5 vf](#)
19:52 - ★★★★★
wat.tv



[The 2012 Enigma by David Wilcock](#)

1:35:47 - Mar 10, 2008 - ★★★★★ (992 Ratings)

[Email this video](#) [Report problem](#) - Rate: ★★★★★

Watch this video on [video.google.com](#)

2012: Tragedy, transcension or just another year? David Wilcock exposes many great secrets: DNA, consciousness science, wormholes, stargate travel ...

そこで私は言いました、「オーマイゴッド！ 私はこんなことを公表したくない。人々は私を生きたまま食うだろう。私は、自分がかかなり有名になるかもしれないなどという予言を、公にしたくはない。」——しかし今、時が来たと思います。

RP: それも運命の一部でしょう。

2010年5月15日のラジオショー抜粋はここまで

今それはより分かりやすくなった

私に向けられてきた怒りと憎しみは、非常に受け入れがたいものだった。もし、少しずつこれに慣らされてこなかったら、私は完全に打ちのめされていたかもしれない。

もし「権力エリート」が暴かれ逮捕されて、大衆が真実を知ったら、これらの問題に取り組んできた多くのさまざまな人々の回りに、メディアの嵐が押し寄せるであろう。

私は、この種の注目を突然浴びるであろう唯一の人間では決してなく、そんなことはあり得ない。

先の木曜日の夜の出来事は、このことすべてについての私の見方をすっかり変えた。私は今それを、悪いことでなく、良いこととして見ている。

我々は、やがてやって来るこれらの出来事について、長い長いあいだ論じてきた。それら

が形ある現実のものになりつつあるのを見るのは、全く驚くべきことである。

この記事シリーズの第2部では、私たちは、これらすべてを合わせたとき考えねばならないデータの、別のピースすべてについて、更なる詳細に立ち入ろうと思う。

私は、これらの夢が正夢かもしれない、そしてもうあまり長く待たなくてもよいかもしれないという考えに、身が震える思いがする。

多くの他の夢が、この同じ共通の結論を私に与えてきた——同じような壮大な驚くべき比喩を用いて。

ひとたび真理が解き放たれたならば、それは決して止められないことを私は知っている。事態はいま本当に面白くなりつつある。

今この時点で起こっていることを、誰も否定することはできない。民衆の怒りがますます新事実を明るみに引きずり出すだろう。

これは過去 230 年にわたる積み重ねによるもの

真相暴露の足取りは、耐えられないほど遅々としていた。しかしあの「同盟」は、バヴァリアのイルミナティが 1776 年に創設されて以来、この時に向けて、営々と努力を続けてきたとすることができるだろう。

私は、9.11 を含む歴史上の最も大きな出来事は、すべて規則正しいサイクルをなして起こっている——それぞれのサイクルにおいて、2,160 年サイクルにわたってさえ、出来事の間隔に 1 日か 2 日というわずかの間隔しか置かず起こっている——ということを発見していた。

ひとたびこの研究の範囲を劇的に拡大し、それについてのすべての最上の情報源をつなぎ合わせ、私自身の多くの新しい発見を考え合わせてみると、なぜこういうことが起こっていたのかという、より大きな目的に目を向けねばならなくなった。

究極的に私の達した結論は、我々是一个の生きた宇宙の中にいて、すべてが同じアイデンティティを共有しているという事実に我々を目覚めさせようとする、はるかにより大きな神のデザインの一部としてすべてがある、ということだった。

意識は、単に脳の内部で起こるニューロンの発火の結果ではない。

ひとたび我々が、集団として、宇宙そのものが意識をもち、現実思考する「根源の場」によって創られていることを理解したとき、我々はまた、いかにそれが我々を導いて、個人的かつ惑星的な進化をさせようとしているかを理解するだろう。

英雄の旅

我々の一人ひとり、精神的信念の如何、あるいはその欠如に関わらず、「英雄の旅」という原型によって知られる、同じ精神的道程を導かれている。

イエスは、彼がこのことを理解していたことを示す非常に挑発的な言葉を、聖書の中に残して、英雄のパターンを身をもって示すことになった。これらのサイクルは、明らかに他の宗教にも現れている。

私の足指の負傷は、死という運命——死後とその更に先の、我々すべてが知り共有しているより大きな現実——を考えさせるきっかけとなった。これが新しい本の鍵的部分になっている。

この本の 250 頁からなる前半全体は、サイクルが詳細に論じられるよりすでに前に、我々の生きるより大きな現実を美しく提示している。

同時性現象は産業的なスケールで起こっている

同時性現象（体験）は、我々が本当は誰であり何なのかという真理に、我々を徐々に気付かせるために用いられる。同時性現象は歴史のサイクルにおいて、産業的なスケールで起こっている。

実は、あるロシアの科学者の発見したところによると、はるかシュメール時代にまで遡る歴史上のすべての記録された出来事は、同じパターンを辿っているという。

それらは発見されるために構築された。

人（生物）の住む何億という世界は、彼らの——個人的・集合的レベルでの——魂の進化を支配する時間の構造を、すでに理解しているのかもしれない。

同時性現象は、すべての時代の最大の謎——我々は誰なのか、なぜここにいるのか、どこへ行くのか？——を解き明かす鍵なのかもしれない。

歴史は、ひとたび我々が、すべての出来事は一つの壮大な神のデザインの一部であり、それらは世界のすべての偉大な宗教によって、我々の集団的覚醒への鍵として是認されたものであることを理解したとき、非常に異なった様相を示すようになる。

どうやらこの偉大な勝利の瞬間が、今ついに我々に訪れたようである。

私は一つの偉大な芸術作品を創り出した

ついに、異常な努力の後、私がこれまでに創りえた最もすぐれた芸術作品と見なされるようになるかもしれないものを、私は創りだした。

これと同時に、何時間も制限なしに続く Disclosure Television (リンク) を制作するのは素晴らしい経験であった。

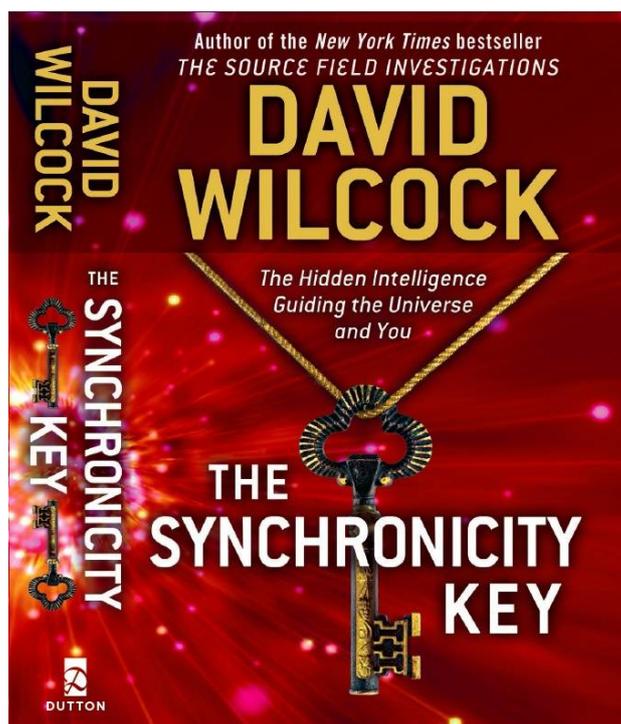
第2部では、この新しい本のために膨大な量のデータを総合しているときに現れてきた、息を呑むような新しい発見を扱うことにする。

私たちはまた、「同盟」が本物であり、ゆっくりと、しかし不可避のスピードで、革命も暴力沙汰もなしに、「権力エリート」を倒そうとしていることを強く示唆する、特定のデータの宝の山を見ることになる。

この新しい資料の、主要な基本的アウトラインとデータの要約は、すでに40頁に及んでいる。そして私は、この本の音声版のための口術を、近くスタジオで行うことになっている。

『シンクロニシティ・キー』は、こうしたすべてが起ころうとしているという予想のもとに書かれた。(それは現在、定価より低い価格で予約注文することができる。)

これは、あなたが今立ちあがって、こうすることが、現実にもその結果に影響を及ぼすことができるという、一つの例である。もしこのようなサイクルが常識的知識となれば、世界はポジティブな方向へ根本から変革されるだろう。



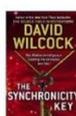
アップデート 6:65 PM, 翌日：“オーマイゴッド”

ワオ！ たった今、全く信じられないシンクロシティが起こった。私は修正と楽しみのために、この論文を読み直したところだった。

最後まで読んで、ほんの1分か2分、間を置いた。すると静かだが明瞭なメッセージが聞こえた、「改めてクリックせよ、今すぐ！シンクロシティが起こっているかもしれない。」

私は考えてみることもなしに、そのようにした。すると、あまりにも考えられないことが起こっているので、私は大きな声で言った、「オーマイゴッド！」

#1 Best-Seller in "New Age Divination with Prophecy" category on Amazon!



The Synchronicity Key: The Hidden Intelligence Guiding the Universe and You by Wilcock, David (Aug 20, 2013)
\$14.99 Kindle Edition
Available for Pre-order. This item will be released on August 20, 2013.
\$25.95 \$19.44 Hardcover Prime
Available for Pre-order. This item will be released on August 20, 2013.
Other Formats
MP3 CD



Tweet



Like 902 people like this.

Hits: 22,222

これは QUINTUPLE-DIGIT(5桁のぞろ目)ヒット・カウンター・シンクロシティ——22,222——だった。私はすぐにスナップショットをとり、ウェブサイトに入ってアップデートを書きこんだ。

(訳者：このあとにも続いて不思議な数値のシンクロシティが起こるが省略する。これはほとんど毎回、起こっているようである。)